

はしがき

最新科学の寵児である塩化ビニールが育苗界に突如として登場し、僅々数年を経ぬ間に全国的にビニール旋風を巻き起し、既に各地で盛んに利用せられ成績を挙げているようである。しかし試験研究の日に浅いだけに、検討すべき問題は幾多残されている。当場では先年来ビニール育苗の研究をすすめているが、ここにその体験を省みて得失の一端を記して参考に供する。

ビニール使用の育苗について

雪印千葉育種場

つたが、ビニールは風雨に対して極めて強く、また数回の積雪にも何等損傷を受けることなく、きわめて好成绩で、多(強)風地帯にはまことに恰好のものである。

ビニールを障子に貼る場合は、その費用は油紙の二(三倍)を要するのであるが、使用年限並びに利用度より見る時、たとえ一時の出費は多くとも必ずしも高価にはならない。

なおビニール使用の育苗の場合、従来のように温床を使わないで、簡単な竹骨式温床による育苗が可能であるから、費用は極めて僅かである。

いま、木框の油障子による場合と竹骨式によるビニール温床の費用を比較してみると次の通りである。

木框油障子の場合	竹骨式ビニール温床の場合
木框代 四尺×一二尺 一框 二、〇〇〇円	竹骨代 一〇ヤール (一ヤール一〇〇円) 一、〇〇〇円
障子 一枚 四〇〇〇円	紙並びに油代 一枚 八〇〇円
紙並びに油代 一枚 八〇〇円	四枚分 三二〇〇円
合計 四枚分 三、九二〇円	合計 三、九二〇円

竹代及び雑費 三〇〇円乃至四〇〇円

以上のように油障子の温床框の場合には約四千円を要するのに對して、ビニール温床では僅か三分の一程度でできるものである。

一 ビニール育苗は油障子より使一 易く、また硝子障子に比し極めて軽く便利である。

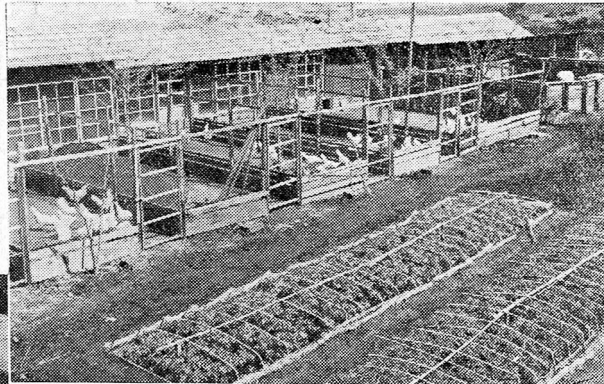
一 紫外線の透過が大きいため丈夫な苗の生産が可能である。

一 光線が床内全面によく拡散するので、苗の生育が整一となる。

一 保温力が極めて高いので低温

時(夜間)の被覆物が少なく、さらに又トンネル栽培が簡単にできるほか、灌水が容易である。また高価な木框等を用いず簡単に温床ができるので苗床設置を増加し、苗を粗植し健苗を育成することができるとしたがつて早期収穫すむ。

安価なものが製造されているが、未だ完全の域には達していない。先ず通気性が紙障子に比較して甚だ劣ることである。したがつて通気管理には十分留意しなければならぬ。この点注意を怠ると温度が著しく上昇し、苗を徒長させ、また甚しきはムレ苗を作り失敗することがある。とくに暖地で高温期には注意を怠つてはならない。



次に水滴がビニールによく着くことである。特に高温・多湿の場合に多く、この水滴が花とくにチユリリップ等の促成の場合葉に落ちると病害の因をなすといわれている。一般蔬菜ではあまり見られぬことで、当場ではさしたる悪影響は認められなかつたが注意を要す

ることである。

つぎに市販のものの中には品質の劣悪なものも出ているので、これらのものは変質し易く、そのため、花の場合には着色あるいは姿勢を悪くする。また耐寒性が少く、耐久力も弱いので、信用のある品を求めることが肝要である。例えばビニールでもレインコートに使う廉い生地は農業用には用いられない。

なお現在接着用の糊として未だ優良なものがないので、高温にしたがつて、刻がれる心配がある。したがつても、現在ビニールは保存の上からも糊を用いず、取はずしのできるよう使用するのが良好のようである。

むすび

農業用ビニールは出現後いまだ数年を経ず、当場の研究も日浅く、十分な成績も得られず、今後に俟つものが大きいのであるが、各地の利用状況または当場の使用経験によつても、確かにビニールは便宜且つ有利なもので、将来益々発展性のあることを確信する。結局「正宗の銘刀も使いうで」のごとく、ビニールの性質を十分知り、その特徴を活かして使うか否かが、その成否を握るものである。とくに、初めてビニールの使用によつて育苗をされる方々に注意したいことは、紙障子育苗と同じ考えで管理すると、ビニールは前述のとおり通気性が悪く失敗を招くので、ビニールの性質をよく知つて、管理を誤らないようにすれば、必ず成功することをお上上げる次第である。(筆者は雪印種苗株式会社・森山武)